

自律的キャリア形成時代におけるキャリア教育の在り方 －デンマークにおける生涯学習意欲醸成のための取組に着目して－

森田 佐知子¹

Suitable Career Education for Autonomous Career Development － Focusing on Lifelong Learning Support in Denmark －

Sachiko MORITA¹

要 旨

本研究は、生涯学習社会の先進国とされるデンマークの専門家へのインタビュー調査をもとに、自律的キャリア形成時代におけるキャリア教育の在り方を、生涯学習意欲の醸成に着目して考察する基礎的、継続的研究である。

考察にあたり、まずデンマークにおける教育システムとキャリアガイダンスについて文献調査から整理した。その上で、デンマークにおける現地調査として、エフタスコレ協会、University College Capital (UCC)、Ministry of Children, Education and Gender Equality を訪問し、専門家へのインタビューを実施した。

調査の結果、キャリア教育の中で生涯学習意欲を醸成していくためには、早期の段階において、立ち止まり、自らの興味関心と強みを知り、他者と協働する機会を持つことが重要であることが明らかとなった。また、キャリアの節目において、自分に合った方法でガイダンスやカウンセリングを受け、次の学びとキャリアに繋げることができる環境が重要であることも明らかとなった。

この2点については、日本におけるキャリア教育・キャリア支援のあり方にも大きな示唆を与えるものである。

【キーワード】 キャリア教育、生涯学習、デンマーク

1. はじめに

本研究は、生涯学習社会の先進国とされるデンマークの専門家へのインタビュー調査をもとに、自律的キャリア形成時代におけるキャリア教育の在り方を、生涯学習意欲の醸成に着目して考察する基礎的、継続的研究である。

児美川 (2013) によれば、日本では、①自己理解系、②職業理解系、③キャリアプラン系

¹ キャリアセンター准教授、責任著者

の3つを主なジャンルとする非常に狭い範囲の教育活動や学習のみを指して、それを「キャリア教育」であるとする理解がされている。また児美川（2013）は、今の日本は転換期であることを指摘し、現代の若者に求められるものとして以下の2点をあげている。

- ①学校卒業後も、生涯学び続けていく姿勢（学び習慣）を身に付けること
- ②就職できたら終わりではなく、自分の人生を引き受けていく「キャリアデザイン」マインドを持って行動すること

特に①について児美川（2013）は、いわゆる「生涯学習」の理念と重なるもので、この「生涯学習」とは、日本におけるカルチャーセンターの講座のような「余暇」や「教養」ではなく、世界の（少なくとも先進諸国の）“常識”では「職業能力開発」であるとしている。

この「生涯学習」は、近年国内外の研究において、自律的キャリア形成において欠かせない要素の一つとなっている²が、では学生が、大学卒業後も生涯学び続け、自律的にキャリアをデザインしていく力を身に付けるためのキャリア教育とはどのようなものなのだろうか。そこで本稿では、生涯学習社会の先進国とされるデンマークの専門家へのインタビュー調査をもとに、自律的キャリア形成時代におけるキャリア教育の在り方を、生涯学習意欲の醸成に着目して考察することとする。

本稿の構成は以下のとおりである。まず第2節ではデンマークにおける教育システムとキャリアガイダンスについて文献調査から整理する。第3節では本研究の方法について、第4節では調査結果を説明し、第5節にて本研究の知見とそれを踏まえた考察、そして第6章にてまとめと今後の課題について述べる。

2. デンマークにおける教育システムとキャリアガイダンス

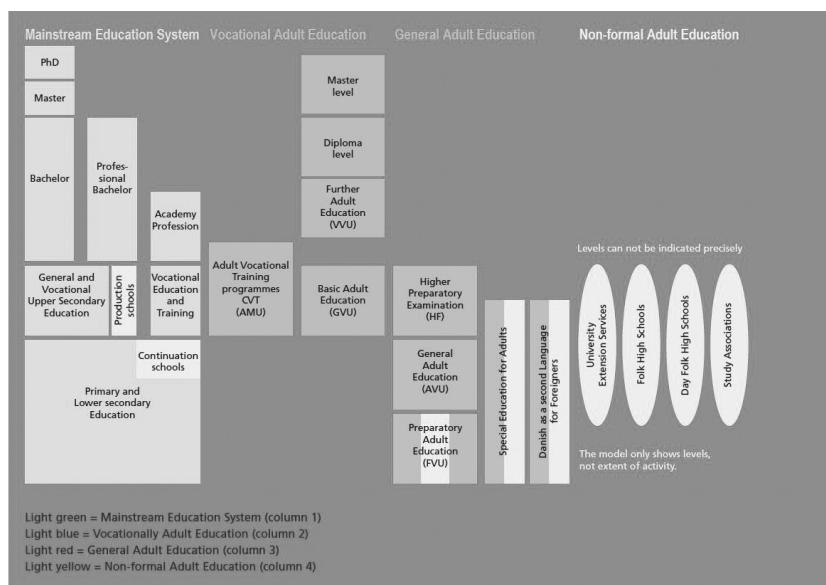
(1) デンマークにおける教育システム

まずデンマークの教育システム概要を図1に示す。

図1から、デンマークの教育システムは、いわゆる日本において「教育システム」と定義されるメインストリームの教育システムに加え、職業訓練成人教育（Vocational Adult Education）、普通成人教育（general Adult Education）、自由成人教育（Non-formal Adult Education）の3つの成人教育が存在していることが分かる。佐藤（2012）によれば、職業訓練成人教育では、労働市場の需要にあわせて職業訓練が行われており、対象は被雇用者、および失業者や低技能の被雇用者、移民や難民となっている。次に普通成人教育は、普通科目の知識と技術を向上させ、彼らの職業と可能性を伸ばすことを目的としており、対象は主に前期中等教育を修了していない者、基礎教育において改善が必要な成人、とされている。一方、自由成人教育の特徴は、19世紀半ばに設立されたフォルケホイスコーレに代表される

² 宮島（2012）は、自律的キャリアの代表的な先行研究としてバウンダリーレス・キャリアやプロティアン・キャリアといった非線形型キャリアを例に挙げたうえで、これら自律的キャリアの先行研究が示唆する4点の1つとして、キャリアにおける能動的な変化や学習が重視されることを指摘している。

図1 デンマークの教育システム概要図



出所：デンマーク高等教育・科学省ホームページ
http://ufm.dk/en/education-and-institutions/the-danish-education-system/overview/adult_education.jpg

ように、グルントヴィヤコルの思想的影響を受けている点であると佐藤（2012）は述べている。また加えて、そこでは、対話による相互作用や全人的な学習が重んじられ、試験のための学習や資格の取得を目的とした専門的な職業訓練は原則的に重んじられないとも述べている。

(2) デンマークにおけるキャリアガイダンス

Danish Agency for Higher Education（2014）によれば、デンマーク政府は、2015年までに95%の若者が普通または職業的後期中等教育を修了しており、かつ、2020年までに60%の若者が高等教育を修了していることを目標とすることを宣言している。そのため、初等・前期中等教育を終えた後の若者を対象とした若年者教育ガイダンスセンターが52か所、さらに中等教育から高等教育への移行を支援するための研究選択センターが7か所設置されている。さらにすべての市民に向け、eGuidance が提供されており、チャットや電話、eメールやフェイスブック等を利用したカウンセラーとのコミュニケーションのチャンネルが提供されている。

デンマークにおけるガイダンスシステムについては、青木真理・谷雅泰・三浦浩喜(2009)が詳しい。青木真理・谷雅泰・三浦浩喜（2009）によると、2004年のデンマークのガイダンスシステム改革のきっかけは「巨大なドロップアウト」であった。この現象を契機に「すべての者に教育と訓練を」をスローガンに、教育の改革が行われた。その中で何よりも意図されたのはガイダンスカウンセラーの質向上であると青木真理・谷雅泰・三浦浩喜（2009）述

べている。青木真理・谷雅泰・三浦浩喜（2009）によると、以前は各国民学校によって教師が個別に子どものガイダンスを行っていたが、1970年代の半ばからスクールカウンセラー制度が導入され、国民学校の教師たちが志願してカウンセラーの訓練を受け、子どもたちの教育・職業ガイダンスを行うことから始まった。この時カウンセラーは教科指導を兼任していたが、2004年の改革でカウンセラーを所属の学校から切り離し、センターに集め、ガイダンスカウンセリングに特化した活動に専念させた。またカウンセラーの資格のレベルアップを図るため、現在は1年間の訓練が義務付けられている。なおカウンセラーは、日本のスクールカウンセラーとは異なり、人間関係、家族との関係といった心理的な悩みを扱うわけではなく、ほぼ、キャリアガイダンスに特化されている。

以上のことから、デンマークの若年者に対するキャリアガイダンスを提供している主な機関としては、初等・前期中等教育を終えた後の若者を対象とした若年者ガイダンスセンター（52か所）、中等教育から高等教育への移行支援のための研究選択センター（7か所）が存在し、そして2004年のガイダンス改革システムにより、カウンセラーの質向上のため、すべてのカウンセラーが教科教育と切り離され、より高度なカウンセリングを提供できるよう訓練を受けていることが分かる。

さらにデンマークの若年者に対する教育において特徴的な機関にエフタスコレがある。エフタスコレ協会のホームページによると、エフタスコレは私立の教育機関で、14歳から18歳までの生徒を対象に、初等・前期中等教育の最後の1年以上を過ごし、初等・前期中等教育を修了することができる教育機関である。その教育の特徴の一つは寄宿学校であることで、現在デンマークに260校が存在している。また谷雅泰・三浦浩喜・青木真理（2010）によれば、62%の生徒が第10学年に属していることから、国民学校終了後の第10学年の1年間をエフタスコレで過ごすことが主流であるとされている³。谷雅泰・三浦浩喜・青木真理（2010）は、エフタスコレとHTX⁴に通う生徒に対するインタビュー調査より、先述した改革後のガイダンスシステムが、効率的に無駄なくコースを歩ませようという側面を持つというその政治的意図を指摘するとともに、エフタスコレに代表される、デンマークにおける「ゆっくりとした育ちを支援する」風土と、それを前提としたガイダンスの可能性を指摘している。

最後に、eGuidance についてその概要をまとめる。デンマークの eGuidance は2011年に創設され、すべての市民に対して様々なヴァーチャルコミュニケーションを通じたガイダンスを提供している。みずほ情報総研株式会社（2011）によると、デンマークの教育分野における ICT 導入政策は1970年に始まっており、現在、教育セクターを含めたデンマーク全体での ICT 活用推進を担うのは科学技術・イノベーション省および同省下で ICT 政策を所管す

³ 谷雅泰・三浦浩喜・青木真理（2010）によれば、1990年代には第10学年を選択した生徒の37%がエフタスコレを選択するようになっている。

⁴ Technical Upper Secondary Education（科学技術高校）

る通信・IT庁である。同省によって2003年に発表されたICT総合計画「賢くITを利用する(en:Using IT Wisely)」では、教育・訓練分野におけるeラーニングの活用を促進していく方針が打ち出され、これを受けて2007年には「eラーニングのための方針(dk:National strategi for e-læring)」が発表された。先進的な情報・ICT活用によるeラーニングの質的・量的な拡充を目指す同施策では、①子ども・若者、②高等教育機関、③公共セクター在職者、④民間セクター在職者、⑤市民の五つをターゲットグループとしてイニシアチブを掲げ、デンマーク国民のコンピテンシー向上を図っている。Danish Agency for Higher Education (2014)によると、ユーザーは日中だけでなく夕方や週末に、eGuidanceのカウンセラーにコンタクトを取ることができる。多くのユーザーがそこでメインストリームの教育や高等教育、成人教育に関する質問をすることができる。

3. 方法

以上の文献調査から、本研究の中心となるデンマークの専門家へのインタビュー調査は、デンマークの若者へのキャリア教育を検討するにあたり、特徴的な機能を提供している下記の3つの教育機関の専門家に対して実施することとした。

(1) エフタスコレ協会

デンマークにおける「ゆっくりとした育ちを支援する」風土を保持する私立の教育機関。初等・前期中等教育の最後の1年以上を過ごすことができる。

(2) University College Capital (UCC)

ガイダンスカウンセラー養成課程を持つデンマークの大学。

(3) Ministry of Children, Education and Gender Equality

eGuidanceの管轄省庁。

インタビューは、それぞれの教育機関の役割をおさえつつ、生涯学習社会としてのデンマークの中でこれら3つの機関が提供する機能が果たす役割を探ることを目的として実施した。

4. 専門家へのインタビュー調査結果

(1) エフタスコレ協会へのインタビュー調査

① 調査概要

調査日：平成27年11月14日（月）

訪問先：The Efterskole Association

対応者：Sune Kobberø氏（Head of Communication）

② 調査結果

〈エフタスコレの概要について〉

まず、Sune Kobberø氏よりエフタスコレの概要についてご紹介いただいた。その内容について下記に示す。

最初のエフタスコレは今からおよそ150年前に創設された。エフタスコレはフォルケホイスコーレと同様にグルントヴィイの思想を受け継いでおり、しばしばフォルケホイスコーレの若年者版だと捉えられるが、フォルケホイスコーレとの大きな違いは、エフタスコレは初等・前期中等教育のオルタナティブ教育としてメインストリームの教育システムの一つに位置付けられている点である。

現在、エフタスコレは260以上あり、27,000名の生徒がエフタスコレに通っている。1つのエフタスコレの生徒数は25名～500名程度、100名～150名が標準的な生徒数である。

〈エフタスコレの教育の特徴〉

次に、エフタスコレの教育の特徴を氏にたずねた。

氏によれば、エフタスコレは独立した教育機関であり、生徒の教育的、そして個人の発達を目的としている。したがって、一般的な教育だけでなく、良い市民となるべき教育を行っている⁵。またエフタスコレの多くは地方都市に存在しており、首都コペンハーゲンには2つのみである。地方都市に多く存在しているという点も、エフタスコレの大きな特徴の一つである。

しかし、あえてエフタスコレの教育の最大の特徴をあげるとすれば、それは、寄宿学校であることと、教師と生徒の関係性である。まずエフタスコレは寄宿学校であるため、生徒は勉強だけでなく、料理や掃除などの日常生活に必要な作業も分担して行う。そうした活動を通じて生徒は、自分が所属するコミュニティに貢献する経験を得る。また役割を与えられることで、責任感や他者への貢献を学ぶ⁶。

つぎに、教師と生徒の関係性について、エフタスコレの教師は、教科を担当するとともに、放課後の生徒のスーパーバイザーでもある。授業の中だけでなく、同じ場所で一緒に生活することで、エフタスコレの教師と生徒には非常に密接な関係性が生まれる。氏によれば、エフタスコレの教師は生徒にとって、教師であり、コーチであり、メンターでもあるとのことであった。

〈エフタスコレやギャップイヤーが若年者のキャリア形成や生涯学習意欲にどのような影響を与えているのか〉

氏によれば、デンマークでは伝統的に、小さい頃から自分自身が決断し、行動することを求められる。つまり、何を学び、将来何になるかは、当然自分自身で決断する

⁵ Kobbero 氏よりいただいたエフタスコレ協会のパンフレットには、「エフタスコレは公立学校と同じ教科と最終試験を生徒に提供している。加えて、生徒の多くは体育や音楽、映像といった、提供される多様な種類の特別教育の教科にもフォーカスしている」とある。Kobbero 氏によると、最近ではスポーツや音楽の科目が人気があるとのことであった。

⁶ エフタスコレ協会では2016年11月24日に、デンマークにて“Together as motivation - a 21st century skill?” のテーマで国際会議を開催したとのことであった。エフタスコレでは、コミュニティの一員として他者と協働する力の育成を、エフタスコレの教育のアウトカムとして提示していくことを模索しているようであった。

ことになる。初等・前期中等教育の最後の1年をエフタスコーレで過ごし、自分自身を知ることで、自分の決断に自信を持ち、何を学び、将来何になるのかといった自らのキャリアを決断しやすくなるのではないかとのことであった。また、生徒の（例えばスポーツや音楽への）興味をどう仕事に繋げていくかを教えることもエフタスコーレの教師の最も大切な仕事であり、興味関心や学びへの情熱を共有し、将来の仕事へ繋げる役割を果たしているとのことであった。

(2) University College Capital (UCC) へのインタビュー調査

① 調査概要

調査日：平成27年11月15日（火）

訪問先：University College Capital Carlsberg campus

対応者：Inger-Lise Petersen 氏（assistant Professor）

② 調査結果

〈UCC の概要について〉

まず Inger-Lise Petersen 氏より UCC の概要についてご紹介いただいた。その内容について下記に示す。

University College Capital (UCC) は、コペンハーゲンにあり、学士課程には10,000名の学生が入学している。教員養成課程と社会科学系の学部を持っており、教師だけでなく、看護師やデザイナーなども養成している。2016年9月に Carlsberg に大部分のキャンパスを移転した。コペンハーゲンで他にガイダンスカウンセラーの養成を実施している大学としては DPU⁷がある。

〈ガイダンスカウンセラー養成コースについて〉

ガイダンスカウンセラー養成コースは1年間にあたる60ECTSのディプロマコース⁸（フルタイム）として提供されているが、仕事をしながら通う学生も多いので、人によっては2、3年かけて修了することもある。コース全体の費用は日本円に換算しておよそ80万円ほどである。教育費が無料なデンマークにおいてこの金額はかなり高額だが、ほとんどの場合、学生が所属する企業や学校が支払う。1年間のコースのカリキュラムには、一般的なキャリアガイダンスの理論の学習だけでなく、成人へのガイダンスや初等・前期中等教育におけるガイダンス、異文化間におけるガイダンス、メンタリング、グループガイダンス、デジタルメディアを利用したガイダンス等、広い領域をカバーした教育が実施されている。カウンセリング理論は Vance Peavey の理論に関する研究と実践が盛んである。

〈若年者に対するガイダンス・カウンセリングが若年者のキャリア形成や生涯学習意欲

⁷ The Danish School of Education, Aarhus University (DPU)

⁸ 英語表記は “Diploma in educational, vocational and career guidance”

にどのような影響を与えているのか)

デンマークの若年者に対するガイダンス、カウンセリングは、それぞれの教師に対して義務付けられているが、100%の若者がガイダンスやカウンセリングをキャリア選択に有効活用しているかという点、残念ながらそうではないのが現状である。ガイダンスやカウンセリングの中で若年者の生涯学習への意欲を高める特別な取り組みは実施していないが、成績が低い生徒は必ずカウンセリングを受けなければいけないので、その点ではドロップアウトの減少などに役立っていると思われる。また近年デンマークでは精神的な課題を抱える生徒が増えており、そのような生徒に対する支援が課題である。

(3) Ministry of Children, Education and Gender Equality

① 調査概要

調査日：平成27年11月15日（火）

訪問先：Ministry of Children, Education and Gender Equality

対応者：Dorit Priisholm Andersen 氏（Editor）

Tine Mette Kronborg 氏（Coordinator for Guidance and Counselling）

② 調査結果

〈eGuidance の概要〉

まず Dorit Priisholm Andersen 氏、及び Tine Mette Kronborg 氏より、eGuidance の概要についてご紹介いただいた。その内容を下記に示す。

eGuidance の政策的背景としては2004年のガイダンス改革において、議会により、ug.dk のウェブサイトと2つの（デジタルでない）ガイダンスサービスの創設が決定されたことがあげられる。その後、2010年にデンマーク議会において95%の若年者が、普通または職業的後期中等教育を修了していることを目標とすることが定められ、デンマークのすべての人に向けた ICT を活用したキャリアガイダンスサービスとして eGuidance がつくられた。

人々は eGuidance を使って、教育、仕事、労働市場に関する情報提供を得たり、実際のトレーニングや仕事を探したりすることができる。また ICT を活用したキャリアカウンセリングも実施されており、チャネルとしては、電話、チャット、メール、ソーシャルメディア等が提供されている。

〈eGuidance の利用状況とカウンセリング体制について〉

両氏によれば、2015年における eGuidance のサイトへのコンタクト件数は108,000件にのぼり、チャネルごとの内訳は、多い順にチャット44%、電話35%、メール19%となっている。またコンタクト件数のうち、45%が情報提供を受け、55%がガイダンスを受けた。コンタクトしてきた人が知りたいと考えている内容で最も多いのは（義

務教育を終え大学に進学しない人への) 継続教育に関すること、次いで一般的な質問、高校や職業教育に関すること、最後に生涯教育に関することである。男女の内訳は、60%が男性、38%が女性。年齢内訳は、34%が成人、33%が17歳以上の若年者、24%が16歳以下の若年者である。

対応するカウンセラーは42名で、14名のフルタイムのカウンセラーはコペンハーゲンで勤務している。28名のパートタイムカウンセラーは他のガイダンスサービスでも勤務している。カウンセリングは平日の朝9時から午後9時まで、土曜日は正午から午後4時まで、日曜日は正午から午後9時まで利用可能である。

(eGuidance が若年者のキャリア形成や生涯学習意欲にどのような影響を与えているのか)

なぜデンマークにおいて生涯学習が盛んなのかは多くの要素があり一言では言えないが、EU全体の指針の影響もあると考えられる。またデンマークでは、人々は、いつどこで教育が終わりということではなく、労働市場が必要とする人材でありつづけることを求められていると考えている。eGuidanceの利用者の過半数は若年者である。彼らからの質問に対応できるものはカウンセラーが対応し、さらに彼らの学びのニーズによって、別の機関を紹介し、より彼らのニーズに合った支援ができるような仕組みを構築している。(近年では、進路選択期にある若年者の保護者からのコンタクトも増えており、保護者向けのFacebookも開設している)

5. 考 察

本研究における現地調査にて明らかとなった、生涯学習意欲の醸成に着目したデンマークにおけるキャリア教育の特徴は下記の2点である。

第一に、デンマークにおけるキャリア教育・キャリア支援は、教育段階の早い時期にフォーカスされている。特に特徴的なのは、初等・前期中等教育から普通または職業的後期中等教育への移行期における支援である。エフトスコレはこの移行期にあたるオルタナティブ教育であり、また全国に52ヶ所存在している若年者ガイダンスセンターもまた初等・前期中等教育の修了生を対象としている。この時期へのフォーカスの理由としてはもちろんドロップアウトの改善もあると考えられるが、デンマークにおいては、普通後期中等教育に進学するか、職業的後期中等教育に進学するかでその後の進路が大きく変わってくることもその要因の一つであろう。特にエフトスコレ協会へのインタビューにおいて、後期中等教育に進む前に、自らの興味関心を見つめ直し、共同生活を経験することの重要性が指摘されていた。eGuidanceのコンタクトの24%が16歳以下であることから、この時期の移行が重要であることが分かる。

この時期に、立ち止まり、支援を受けながら、自らの強みや興味関心を見つめ直し、自分の将来を考えることが、その後の学習意欲へとつながっている可能性があると考えられる。

第二に、デンマークでは、生涯を通じて、多様なキャリア支援の機会が提供されている。初等・前期中等教育最終学年におけるオルタナティブ教育を受ける機会、主に中等教育においてキャリアガイダンスやキャリアカウンセリングを受ける機会、そしてそれ以降も、eGuidanceで提供される様々なチャネルを利用して、学び、相談する機会がデンマークにはある。eGuidanceの1年間のコンタクト件数も10万件と多く、デジタル化されたガイダンスやカウンセリングも普及していることが明らかとなった。

一方で、デンマークにおけるキャリア教育・キャリア支援の変化や課題もいくつか明らかになった。

第一に、地方にあるエフタスコレに代表される「ゆっくりとした育ちを支援する」風土から、若者を早く労働市場に輩出すべきという政府や都市部の傾向への移行である。エフタスコレ協会ではこの流れを認識しており、エフタスコレの学びがその後の学生の学習意欲の向上に役立つエビデンスを提示することに取り組んでいた。

またカウンセリングを必要とする学生も、一般の学生から、成績が思わしくない生徒や精神的な課題を抱える学生に変化しており、カウンセリングのあり方やカウンセラーに求められる知識や資質も今後変化していくと考えられる。

さらに、都市部を中心に大学を目指す学生が増えており、労働市場が求める高度な職業訓練を受けた人材も不足しているとのことであった。

6. まとめと今後の課題

本稿では、生涯学習社会の先進国とされるデンマークの専門家へのインタビュー調査をもとに、自律的キャリア形成時代におけるキャリア教育の在り方を、生涯学習意欲の醸成に着目して考察した。

デンマークにおける現地調査では、エフタスコレ協会、University College Capital(UCC)、Ministry of Children, Education and Gender Equalityを訪問し、専門家へのインタビューを実施したが、そこから、キャリア教育の中で生涯学習意欲を醸成していくためには、早期の段階において、立ち止まり、自らの興味関心と強みを知り、他者と協働する機会を持つことが重要であることが分かった。またキャリアの節目において、自分に合った方法でガイダンスやカウンセリングを受け、次の学びを見つけ、次のキャリアに繋げる環境が重要であることも明らかとなった。この2点については、日本におけるキャリア教育・キャリア支援のあり方にも大きな示唆を与えるものとする。

また同時に、デンマークのキャリア教育・キャリア支援もいくつかの側面で変化を求められていることも明らかとなった。この点については今後の課題として研究を蓄積していきたい。

謝 辞

本研究は、公益財団法人北野生涯教育振興会の助成を受け、実施したものです。また、デンマークにおける現地調査にあたり、インタビューにご協力いただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

さらに本研究にあたり、北欧研究所の代表である安岡美佳様、同じく北欧研究所コンサルタントのレアスコウ華恵ソフィエ様には、事前調査とインタビュー先の選定、現地におけるコーディネートなどご助言、ご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

参考・引用文献

Danish Agency for Higher Education (2014) Guidance in Education

(http://euroguidance.eu/wp-content/uploads/2015/03/guidance_in_education_pdfa.pdf)

エフタスコレ協会ホームページ (<http://www.efterskole.dk/da/Schools>)

青木真理・谷雅泰・三浦浩喜 (2009) 「デンマークのガイダンスシステムについて—教育省でのインタビュー調査を中心に」『福島大学総合教育研究センター紀要』(7), 67-74, 福島大学総合教育研究センター.

児美川孝一郎 (2013) 『キャリア教育のウソ』筑摩書房.

佐藤裕紀 (2011) 「デンマークの生涯学習戦略に関する一考察：『デンマークの生涯学習戦略』における自由成人教育の戦略に着目して」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』(19-2), 107-117, 早稲田大学大学院教育学研究科.

谷雅泰・三浦浩喜・青木真理 (2010) 「デンマークの若者支援—若者へのインタビュー(その2) エフタスコレと HTX」『福島大学地域創造21 (2)』40-56, 福島大学地域創造支援センター.
みずほ情報総研株式会社 (2011) 『ICT の活用による生涯学習支援事業 (国外における実態調査) 報告書』

(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afildfile/2011/07/29/1308856_1.pdf)

宮島裕 (2012) 「自律的キャリアの課題についての一考察」『目白大学経営学研究』10, 105-117, 目白大学大学院経営学研究科.